

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	愛の家グループホーム札幌星置 かすみそう	評価実施年月日	平成22年3月1日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成22年3月1日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
<p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>法人共通 愛の家グループホーム運営理念 1. その人らしい、快適で穏やかなシルバーライフを常にサポートします。 1. 心を込めた親切なサービスに努め、その心を磨き続けます。 1. 様々な機会を通じて、地域の人々とのふれ合いを大切にします。</p> <p>事業所独自 愛の家グループホーム札幌星置運営理念 一人ひとりの思いを大切に毎日を安心して暮らせる地域にとけこんだホームを目指します</p>		<p>今後もしっかりと理念の共有を行い理念に沿ったケアを行って行きたい。</p>
<p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>運営理念は毎日の朝礼時に全員で唱和している</p> <p>その人の生活暦十分に收拾しそれを介護するベースとした介護の提供を心がけている</p>		<p>ただ唱和しているだけではなく全職員暗記し常に頭に入れて実践しているようにしている。</p>
<p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議や地域行事を通し、地域の民生委員の方々を初め、多くの方との交流が図られるように努めている。</p> <p>毎月計画される行事内容には地域行事への参加や、外出機会を積極的に設けている。社会資源の活用や地域住民との交流を積極的に行っていることを、入居時に案内する他、入居後はホーム通信等を介して取り組み内容を紹介している。</p>		<p>今後も地域の行事などには参加していきたい。</p>
<p>2. 地域との支えあい</p>			
<p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>民生委員の方々の多大な理解と協力を得ることができており、様々な機会地域交流を図ることができたり、ボランティア訪問を受けることができています。</p> <p>事業所の取組みが地域の方にわかるように玄関前にボードを設置し、グループホームでの活動内容を知ってもらうようにしている。</p>		<p>今後も継続して行きたい。</p>
<p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内会のイベントや地域の学校行事に出席する機会を多く持ち、ご入居者が地域住民として生活ができる場面を多く持っている。</p>		<p>これからは認知症講座などを開き気軽にホームに立ち寄れることのできる関係作りを行なって行きたい。</p>
<p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>事業所責任者はキャラバンメイトの資格を取得し、地域貢献を図ることができるように準備している。</p>		<p>必要に応じて認知症ケアの啓発に関わっていく</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>全職員で自己評価の実施に取組み、自身で自己の課題を明確にし、向上と改善に努めている。</p>	<p>明らかになった課題をスタッフ全員で検討する機会を増やしていく</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>2ヶ月に1度の運営推進会議を有効活用できるように、毎回工夫を行っている。運営推進会議では事業所の取組みを積極的に伝え、地域の方々からも様々な声を伺うことができ、毎回充実した時間となっている。</p>	<p>会議の中では、みなさんと和やかに意見交換などして会を重ねるごとに良い関係ができていっているので継続したい。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>必要に応じて、担当者に助言を受けることができるように努めている。</p>	
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>法人内や事業所内にて権利擁護に関する理解を深めるための研修を定期的実施している。 必要に応じて家族や入居相談者に社会資源や関係法令を案内している。</p>	<p>全スタッフが研修を受けられるようにしていきたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>法人内や事業所内にて虐待防止に関する理解を深めるための研修を定期的実施している。 法人内においては事業所責任者や職員が自己の行動を振り返り、虐待防止への意識が高まようように定期的に制度や社内ルールを伝達している。</p>	<p>言葉一つでも虐待となり得ることを意識した声かけ、関わりの徹底をしたい。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居に関する説明や契約時に十分な時間を要して全ての概要を説明している。ご入居者及びご家族の権利や事業所の責務を明確に伝えるようにしている。</p>	<p>今後も明確に、確実に伝えていきたいと思えます。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日々の関わりの中からお本人の要望を逃さないように努めている。		今後も心の声にも気付いていけるようにしていきたい。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	定期受診や往診後には全く変化が生じていない場合を除いて、その都度電話で報告を実施している。日々の暮らしぶりに関しては面会時や必要に応じて電話で報告するようにしている。毎月、個人別の通信を発行し、遠方の家族や面会に来られない家族にもご本人の様子ができるようにし、事業所に入居したことで、ご本人と家族の距離が離れないように努めている。		個人通信の内容を見直し、日々の暮らしぶり以外にも健康状態等も把握できるようにしていく。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	契約時に苦情や意見に関しての内外の窓口を案内している。事業所玄関にご意見箱を設置し意見を募っている。年1回、ご家族アンケートを実施し、様々なご意見を頂くと共に、法人内の他事業所に寄せられたご意見も自事業所への声と認識し、日々のサービスの向上と改善が図られるように努力している。		運営推進会議へのご家族の出席率が向上する働きかけを実施したい
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員アンケートを実施し、全職員の声を聞くことができる機会を設けている。徴収した意見は事業所単位、法人単位で今後の活動方針に取り入れていくようにしている。法人内の近隣事業所同士で委員会を設置し、職員がやりがいを感じる会社作りがなされるように、意見交換を行い、経営者に意見している。職員が個々で悩みを抱え込まないように法人内の他事業所の職員との交流の場を設けている。		全ての職員がより一層やりがいを持って働くことができる会社となるように経営者に働きかけていく
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	基本の勤務形態にとらわれず、必要に応じて勤務人数や勤務時間を変更し、ご入居者の声に応じられるようにしている。		外出行事などには職員配置を多くしている。今後も臨機応変に対応していきたい。
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員が長く充実して仕事を続けられ、ご入居者が安心して生活を継続することが可能となるように取組んでいる。必要に応じて異動が発生した場合には引継ぎ時間を設けて、提供されるサービスが低下することの無いように、チームでフォローしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>法人内の近隣事業所同士で委員会を設置し、社内研修の機会が充実されるようにしている。社外研修に参加できる機会を積極的に設け、職員が学習機会を得ると同時に、気分のリフレッシュと新たな課題の設定が図ることができるようにしている。</p>	<p>新しい研修を設けて全スタッフが定期的に受けられるようにしていきたい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>社内研修や交流会の場を設けて、日々の悩みを事業所内や個人で抱え込まないようにしている。</p>	<p>法人外の事業所職員との交流を必要に応じて設けていく</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>社内研修や交流会の場を設けて、日々の悩みを事業所内や個人で抱え込まないようにしている。</p>	<p>職員が中期・長期休暇を取得できる仕組み作りを法人内の近隣事業所と協力して作り上げていく</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>全職員が成長課題「マイチェンジ」を設定し、自己成長を意識するきっかけ作りをしている。法人内では職員の評価システムを設置しており、日々の努力と結果が昇給・昇格に反映される仕組みを取っている。</p>	<p>自分自身の目標や夢が風化されることがないように日々前向きに取り組んでいけるようにしたい。</p>
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居相談やご本人と面談する入居審査の場面において、ご本人やご家族の要望を伺うようにしている。ご本人の家族構成や職歴等の生活暦を伺うなかで、グループホームでの生活が始まった後から、ご本人がやりがいを感じる場面作りを検討している。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>事業所の見学は可能な限り2回以上実施して頂き、事業所の雰囲気を一層感じてもらえるようにするとともに、ご家族の話を伺う時間を多く設定している。事業所はご家族が叶えることができなかったことを実現する責任があるものと認識し、ご家族からの要望は可能な限り実現できるように努力している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	グループホームへの入居に限った対応はせずに、在宅での生活が継続できないのかを検討しながら、他の社会資源を案内している。グループホームへの入居が必要となった時には、自事業所のみを見学とせずに、他法人のグループホームの空室状況を案内し、他グループホームを見学することで、ご本人に合ったグループホームを選択して頂けるように案内している。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	体験的な入居は実施していないが、ご家族立会いのもとであれば、日中帯での体験的な利用は可能としている。ご家族を含めて、ご入居者と共に食事を摂ることも可能としている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	買い物、調理など生活の場での仕事を一緒に行っている。又、行事の準備やホーム内の装飾作りなど出来るだけ色々な事を一緒に行い、ご入居者が培ってきた事柄を教えていただくなどして支えあう関係づくりを行なっている。		共に生きること、暮らすこと、一緒に時間を共有することをモットーに日々暮らしています。今後も継続したいです。
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族が訪ねていらした時や電話、ホーム便りで日頃の様子をお伝えしたり、相談をしている。又、行事や誕生日にお越しいただいて協力をお願いしたり、一緒に楽しんでいただける機会を作るなどして気持ちの共有を計っている。		ご家族様に安心していただけます。と言われるくらい関係作りに今後も努力して行きたいです。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	アセスメントや生活歴などから家族関係の理解に努め、ホームにお越しの際には快適に過ごして頂けるように配慮したり、ご本人の様子や体調などについてお知らせしている。		今後も小さな変化に気をつけていきたい。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	久しぶりに訪ねて来られた方が、次の機会に再びお越し下さるように馴染みの方を大切に考えています。又、以前の馴染みの場所ばかりではなく、新しい馴染みの場所が作れるよう支援している。		今後も居心地のよい空間作りを徹底して行なっていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士の関係を把握し、ひとりひとりが何らかの役割を持つなど、お互いに支えあいながら生活している。役割が持たなくても孤立しないような係わりや入居者同士の橋渡しなどスタッフが担っている。		個別ケアを行いながらも利用者様同士の寄りよい関係作りを行なっていきたい。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	現在、対象となっている方はおられないが、今後そのようなケースがあった時には必要に応じたサービスが提供できる体制は整っている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ひとりひとりの希望を伺ったり、ご家族からの情報などをもとに把握に努めている。又、その方の立場に立った目線で考えている。		今後も個別ケアに力を入れて行きたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人やご家族から情報を提供していただき、入院していた病院や入居前に係わっていた地域包括や利用していたサービスの事業所などから情報を得ている。		これまでの生活になるべく近い形の環境の提供に力を入れて行きたい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	介護記録や申し送りによって生活のリズムを把握している。変化があった場合にも情報を共有し、現状把握ができるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ご本人やご家族の意向等伺い、スタッフでのケアプランのモニタリング、カンファレンスを行い、その都度介護支援専門員の意見、監理を受けている。		統一されたチームケアに向けて今後も努力していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画の期間に応じて全スタッフによってモニタリング、カンファレンスを行なって各スタッフの意見や情報を元に、又ご家族の意向を伺うなど関係者と話し合い、新たな計画を作っている。		今後は全ご家族様がカンファレンスに参加して頂ける様にサポートしていきたい。
38 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別の介護記録にプランの実践を記録し、対応や反応、変化のあったことなどの情報を共有し、課題を見つけながら見直しに活かしている。		ケアプランに沿った記録書きの徹底を図りたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	ホーム内での介護や支援ばかりではなく、必要に応じて提携医療機関以外の病院への受診や家族交流のための付き添いなど柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	多くの方々のご理解とご協力を得ることができ、様々な場面でボランティアの協力を得ることができている。		今後も寄りよい関係を築いていきたい。
41 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	地域のケアマネジャーや施設相談員と交流する機会を設け、社会資源の状況を都度把握し、必要に応じて利用を検討している。		まだまだ知らないことが有ると思われるので調べて活用していきたい。
42 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議を通して、地域包括支援センターから様々な助言を頂き、サービスの向上に努めている。		会議以外でも気軽に相談、助言をいただける関係を作りたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。	提携医療機関の主治医に固執することはなく、入居前の主治医を継続することも可能としている。事情によって入居をきっかけに主治医が変更される場合においても、紹介状等を介して過去の情報が共有されるように努めている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	提携医療機関の医師は在宅訪問診療に長年携わったベテラン医師であり、認知症の専門的な知識と見解を要している他、認知症高齢者の行動や精神状態にも深い理解を示しており、職員の相談に適宜応じてくれている。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	提携医療機関の看護師はご入居者の健康管理に務める以外に、職員の相談に応じたり、助言を行うなどの支援を実施している。グループホーム運営への理解に長けており、事業所の雰囲気や職員の活動に対しても適宜適切な助言や指導を行っている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	速やかに情報提供を実施することとしている。医療機関への入院期間が長期化し認知症が進行しないように、治療を終えたら早期に退院が可能となるように掛け合っている。医師の指導を受け、事業所内で職員が実施できるリハビリの指導を受けるなどの工夫を行っている。法人内に管理栄養士を配置し、個々の疾病に応じた献立が立てられるようにしている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	ご入居時に重度化した場合に関わる指針を説明しているが、多くのご家族にとって、先々のことが実感できないものであると考え、重度かもしくは終末期が考えられる可能性が生じた際に早期に相談する場面を設けている。		職員の知識や見解等の時期を考えながら終末期ケアに関しての専門的な研修会を設けたい
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	終末期に対応は個々の疾病や身体状況によって変わる他、ご家族の想いや協力度合いによって可能となることが変化すると考えている。できることの見極めよりもできないことを明確にしておくことを重視し検討している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>グループホームへの入居によって環境が全く変わってしまうことのないように、身の回りの家具は可能な限り長年使用しているものを持ち込んで頂く様に説明している。なじみの場所から離れることの無いように、好きな土地や思い出の場所を知っておくようにし、事業所内の行事事で訪れる機会を持つようになっている。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>個別の声掛けを行なっている。ご本人の状態を把握し対応している。申し送りはご入居者の耳に入らないように行い、個人記録や書類の管理を行なっている。</p>		<p>プライバシーやプライドを大切にし、より一層認知症の内的世界が理解できるよう研修などを設ける。</p>
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>ご本人が分かるようにお聞きし、行事参加や外出、入浴、飲み物、お手伝いなど自己決定していただき、納得した生活ができるように努めている。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>業務優先にならないよう声掛けや話し合いで一人ひとりのペースに合わせて希望に添った生活ができるように努めている。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>日常的に服を選んでいただいたりお化粧ができるよう支援している。外出や行事には普段とは違うおしゃれや化粧を行ったり、訪問理美容ばかりではなく地域のお店に行く機会を作っている。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>基本的なメニューは決まっているが季節や好みに合わせたり、行事に要望を取り入れている。調理をお手伝いいただいたり味見をしていただくなどしており、準備、後片付けも毎日一緒に行なっている。外食も行い、好みの物を選んで召し上がっていただいている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	ご本人の希望をお聞きし、好きな飲み物やおやつ、タバコを楽しんでいただいている。好きなものを買いに外出している。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	一人ひとりの排泄のパターン、習慣を活かし、その方の状況に応じたトイレ誘導やおむつの交換を行っている。おむつを使っている方でも必ずトイレに入っただき、トイレでの排泄ができるようにしている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	お風呂が好きな方には毎日入っただけよう支援している。入浴が嫌いな方にも気持ちよく入って頂けるよう声掛けや対応に工夫をして行っている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	体調や眠気などをみながら休んでいただいている。就寝時間は一人ひとり違うので合わせて対応している。		なかなか寝つけない方に関して、日中の様子や運動量、体調などとの関連を見直したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	以前の仕事や生活習慣などを配慮し、役割を持っていただいたりお手伝いをしていただいている。掃除、調理、畑仕事、又裁縫や編み物など得意なことができたり、散歩や買い物など外に出ての気晴らしができるよう支援して。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現金は基本的にはホームでお預かりしているが、買い物で支払いをしていただくなど使える機会を作っている。希望や必要に応じてお金を所持していただく支援体制はできている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	理美容や日常で使う品物や嗜好品の買い物で外出したり、外出好きの方にホームの買い物に同行していただく事、気分転換の為の外出など日常的に外出支援をしている。		今後も一層の外出支援に力を入れて行きたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	興味のあることに触れられる個別外出、ご家族との墓参りや外出、外泊、旅行など希望に沿った外出ができるように、ご家族と情報交換をするなどして支援している。		より一層「その方の想い」を叶えるという意味を深めての個別外出に取り組みたい。 Ex.デパートでゆっくり買い物したい=マンツーマンでの外出
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	携帯電話を持っておられる方もいらっしゃるが、ホームの電話を使っていつでもやり取りができる。		届いた手紙に対しての支援ができていないので、スタッフから働きかけて返事を出したり季節のお便りを出す支援に取り組みたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	どのご入居者にもご家族(子供、孫、嫁)が面会に来られ、各々の居室や食堂などでゆっくり過ごしていただけるように飲み物をお出ししたり、日常の様子をお伝えしたりしている。		気軽にホームに来ていただけるように今後も笑顔で元気に出迎えて行きたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	事故につながらないように、ご自分でベットから降りても安全にクッションになるものを敷いたり、動きがわかるような工夫をしながら身体拘束は行っていない。		身体拘束についての研修や日々のケアの中でも拘束について考える時間を設けている。今後も拘束のないケアを徹底していく。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	出入口が開かない閉塞感をご入居者に感じさせないように鍵はかけていず、間違っても他者の部屋に入ろうとされたり、ひとりで外に出てしまわれた場合の対処を状況に応じて講じている。		今後も鍵はかけずご利用者の気持ちに寄り添ったケアを行っていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	その方の側に行って声掛けをするようにしている。職員は昼夜ともご入居者の様子が分かる場所におり、動向を見守りながら安全に配慮している。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	はさみやナイフ、お線香やろうそくなど基本的にはホームでお預かりしているが、必要に応じて使っていただいたりご家族にもご理解いただきながら使っていただいている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故報告書・ヒヤリハット報告書を基に、事業所内で起きる、事故もしくは事故に結びつく可能性がある事柄を共有している。法人内においては全事業所の事故報告を集計し、全ての事業所で事故対策・予防を講じられるように指導している。		事故、ヒヤリの検討会を開催し同じ事故を起こさないように務めている。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	訓練への参加や機会の提供が少なく、積極的・定期的な取り組みが成されていない。職員個々の取り組みに任せきりになっている。		定期的な訓練が実施されるように努める
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	日中、夜間を想定した訓練を実施している。地域住民の協力を得ての訓練を実施した経験が無い。		地域住民の協力を得た訓練を実施する。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	入居時に起こりうる事故の説明を実施している他、事故対策や予防への努めも説明し、安心して事業所を利用できるようにしている。		アセスメントを日々徹底しており予測可能な限り対応している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎朝バイタル測定を行い、基本の体調を把握しながら食事の様子や言動に留意するなどの対応を行なっている。記録や申し送り、朝礼などで情報の共有を行い、変化に合わせた対応を行なっている。		早めの判断、報告、相談が徹底されており今後も一層の徹底をして行く。
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方箋によって薬の情報を得、薬の増減や変更があった時には身体状況の変化の観察に努め、状況に応じて医師と相談している。		今後も医師との連携を深めていきたい。
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	食物繊維の多い食品を摂ったり、ヨーグルトや乳酸飲料、オリゴ糖などを取り入れている。個人にあった食品を用意したり、散歩等で身体を動かす機会を作っている。		今後も継続していきたい。
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後、食べ物が残らないように義歯をはずして歯みがきをし、義歯の手入れを行なっている。自立者への声掛けや毎晩、洗浄剤を使って全員の義歯洗浄を行なっている。		今後も継続支援をして行く。
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	献立は管理栄養士がカロリーや栄養バランスを考慮したものになってる。毎食の摂取量、水分摂取量を記録し必要な支援を行っている。		食べることを大切に考え見た目にも楽しい、美味しい食事を提供していきたい。
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	法人内共通の予防・対応マニュアルが設置され、日頃から感染症対策が実施されている。		研修や日々意識を高め今後も徹底していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	法人内共通の予防・対応マニュアルが設置され、日頃から衛生管理が実施されている。		食材の管理は今後も徹底して行っていく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	玄関前にはボードを設置し、近隣の住民が事業所内の取り組みがわかるように配慮している。		近隣住民の方が気軽にホームに立ち寄る事ができるように今後も更なる工夫をして行く。
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	ブラインドやカーテンで日光を調節したり、不自然に大きな音が立たないように配慮したり、季節を感じる飾り付けや行事を取り入れている。オープンキッチンで調理の音や料理のにおいを自然に感じることができている。		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	食堂、居間で気の合う方々と同じテーブルについて食事やお茶が飲めるようにしたり、ゲームなどが出来るように配慮しており、その中でも一人でゆったりと過ごすこともできている。		環境整備はとても大切なことと認識し今後も居心地のよい空間作りに力を入れていく。
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	使い慣れたものや好みのもので居室作りをしていただいている。状況に応じてご家族と相談をし、必要なもの、欲しいものを用意していただいたり持ち帰っていただくなどして居心地の良い居室作りを行っており、居室でゆったりと過ごされている。		環境整備はとても大切なことと認識し今後も居心地のよい空間作りに力を入れていく。
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	掃除や温度調整の為に窓を開けて換気を行い、におい対策や新鮮な空気を取り入れている。コーヒーを落とした後の豆を利用し消臭に役立っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>バリアフリーや廊下の手すり、エレベーターやスロープを設置している。又、行動の妨げにならないような家具の配置にも配慮している。車椅子の方でも行動できるスペースもある。</p>	<p>時間の流れとともにご入居者の身体機能が低下してきているため、浴室、浴槽の手すりの数を増やすなどの工夫が必要である。</p>
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>職員は一人ひとりの”わかる力”を把握しており、居室に名前を付けたり写真を利用して分かりやすくしている。その方に合わせた掲示の工夫、目印を用いたりしている。</p>	
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>シーズンによって事業所前の駐車スペースでバーベキューや日光浴を楽しんだり、事業所裏の畑で季節の実を感じ、活動の場を設けている。</p>	

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者            利用者の2 / 3くらい            利用者の1 / 3くらい            ほとんど掴んでいない</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある            数日に1回程度ある            たまにある            ほとんどない</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者            利用者の2 / 3くらい            利用者の1 / 3くらい            ほとんどいない</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者            利用者の2 / 3くらい            利用者の1 / 3くらい            ほとんどいない</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者            利用者の2 / 3くらい            利用者の1 / 3くらい            ほとんどいない</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者            利用者の2 / 3くらい            利用者の1 / 3くらい            ほとんどいない</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者            利用者の2 / 3くらい            利用者の1 / 3くらい            ほとんどいない</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族            家族の2 / 3くらい            家族の1 / 3くらい            ほとんどできていない</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように            数日に1回程度            たまに            ほとんどない</p>

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>ほぼ全ての職員が 職員の2 / 3くらいが 職員の1 / 3くらいが ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての利用者が 利用者の2 / 3くらいが 利用者の1 / 3くらいが ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての家族等が 家族等の2 / 3くらいが 家族等の1 / 3くらいが ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

- ・毎月の外出レクリエーション
- ・ご入居者が自分の力を発揮できる場面がある
- ・ご入居者が協力し合って生活している
- ・できるだけ手作りの栄養バランスのとれた食事、手作りおやつ～おいしいと喜んで頂いている

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	愛の家グループホーム札幌星置 ルピナス	評価実施年月日	平成22年3月1日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成22年3月1日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
<p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>法人共通 愛の家グループホーム運営理念 1. その人らしい、快適で穏やかなシルバーライフを常にサポートします。 1. 心を込めた親切なサービスに努め、その心を磨き続けます。 1. 様々機会を通じて、地域の人々とのふれ合いを大切にします。</p> <p>事業所独自 愛の家グループホーム札幌星置運営理念 一人ひとりの思いを大切に毎日を安心して暮らせる地域にとけこんだホームを目指します</p>		<p>スタッフ全員が理念を意識して行動できるようになりたい。</p>
<p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>運営理念は毎日の朝礼時に全員で唱和している</p> <p>その人の生活暦十分に收拾しそれを介護するベースとした介護の提供を心がけている</p>		<p>スタッフによっては生活歴まで十分に考えずに関わっている為、心からの言葉がでるようにしたい。</p>
<p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議や地域行事を通し、地域の民生委員の方々を初め、多くの方との交流が図られるように努めている。 毎月計画される行事内容には地域行事への参加や、外出機会を積極的に設けている。社会資源の活用や地域住民との交流を積極的に行っていることを、入居時に案内する他、入居後はホーム通信等を介して取り組み内容を紹介している。</p>		<p>気軽にホームにも立ち寄れるようにしたい。</p>
<p>2. 地域との支えあい</p>			
<p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>民生委員の方々の多大な理解と協力を得ることができており、様々な機会地域交流を図ることができたり、ボランティア訪問を受けることができています。 事業所の取組みが地域の方にわかるように玄関前にボードを設置し、グループホームでの活動内容を知ってもらうようにしている。</p>		<p>ホームの隣のお宅などは挨拶くらいなので、もっと気軽に話をしたりできるようにになりたい。</p>
<p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内会のイベントや地域の学校行事に出席する機会を多く持ち、ご入居者が地域住民として生活ができる場面を多く持っている。</p>		<p>もっと沢山の行事に参加する。</p>
<p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>事業所責任者はキャラバンメイトの資格を取得し、地域貢献を図ることができるように準備している。</p>		<p>必要に応じて認知症ケアの啓発に関わっていく</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全職員で自己評価の実施に取組み、自身で自己の課題を明確にし、向上と改善に努めている。		明らかになった課題をスタッフ全員で検討する機会を増やしていく
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1度の運営推進会議を有効活用できるように、毎回工夫を行っている。運営推進会議では事業所の取組みを積極的に伝え、地域の方々からも様々な声を伺うことができ、毎回充実した時間となっている。		直接参加したのは1回だが、皆様方からいただく内容はホームにとって為になっている。スタッフにも周知すると思う。
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	必要に応じて、担当者に助言を受けることができるように努めている。		スタッフには見えにくい部分である。
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	法人内や事業所内にて権利擁護に関する理解を深めるための研修を定期的実施している。 必要に応じて家族や入居相談者に社会資源や関係法令を案内している。		ユニット内でも研修を実施したい。
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている。	法人内や事業所内にて虐待防止に関する理解を深めるための研修を定期的実施している。 法人内においては事業所責任者や職員が自己の行動を振り返り、虐待防止への意識が高まるように定期的に制度や社内ルールを伝達している。		小さな事でも虐待に及ぶとの研修もしている。
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居に関する説明や契約時に十分な時間を要して全ての概要を説明している。ご入居者及びご家族の権利や事業所の責務を明確に伝えるようにしている。		しっかり覚え、伝えられるようになりたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日々の関わりの中からご本人の要望を逃さないように努めている。		真のニーズに近づけるようスタッフが一丸となってケアしている。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	定期受診や往診後には全く変化が生じていない場合を除いて、その都度電話で報告を実施している。日々の暮らしぶりに関しては面会時や必要に応じて電話で報告するようにしている。毎月、個人別の通信を発行し、遠方の家族や面会に来られない家族にもご本人の様子ができるようにし、事業所に入居したことで、ご本人と家族の距離が離れないように努めている。		個人通信の内容を見直し、日々の暮らしぶり以外にも健康状態等も把握できるようにしていく。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	契約時に苦情や意見に関しての内外の窓口を案内している。事業所玄関にご意見箱を設置し意見を募っている。年1回、ご家族アンケートを実施し、様々なご意見を頂くと共に、法人内の他事業所に寄せられたご意見も自事業所への声と認識し、日々のサービスの向上と改善が図られるように努力している。		運営推進会議へのご家族の出席率が向上する働きかけを実施したい
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員アンケートを実施し、全職員の声を聞くことができる機会を設けている。徴収した意見は事業所単位、法人単位で今後の活動方針に取り入れていくようにしている。法人内の近隣事業所同士で委員会を設置し、職員がやりがいを感じる会社作りがなされるように、意見交換を行い、経営者に意見している。職員が個々で悩みを抱え込まないように法人内の他事業所の職員との交流の場を設けている。		全ての職員がより一層やりがいを持って働くことができる会社となるように経営者に働きかけていく
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	基本の勤務形態にとらわれず、必要に応じて勤務人数や勤務時間を変更し、ご入居者の声に応じられるようにしている。		外出レクは内容によっては人数(スタッフ)を確実に確保したい。
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員が長く充実して仕事を続けられ、ご入居者が安心して生活を継続することが可能となるように取組んでいる。必要に応じて異動が発生した場合には引継ぎ時間を設けて、提供されるサービスが低下することの無いように、チームでフォローしている。		異動はなるべくなくしたい。問題が発生した場合、火種の小さいうちに解決したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	法人内の近隣事業所同士で委員会を設置し、社内研修の機会が充実されるようにしている。社外研修に参加できる機会を積極的に設け、職員が学習機会を得ると同時に、気分のリフレッシュと新たな課題の設定が図ることができるようにしている。	社内研修、外部研修を継続し、学んだ事をいつまでも色あせないよう常に伝え続けたい。
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	社内研修や交流会の場を設けて、日々の悩みを事業所内や個人で抱え込まないようにしている。	法人外の事業所職員との交流を必要に応じて設けていく
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	社内研修や交流会の場を設けて、日々の悩みを事業所内や個人で抱え込まないようにしている。	職員が中期・長期休暇を取得できる仕組み作りを法人内の近隣事業所と協力して作り上げていく
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	全職員が成長課題「マイチェンジ」を設定し、自己成長を意識するきっかけ作りをしている。法人内では職員の評価システムを設置しており、日々の努力と結果が昇給・昇格に反映される仕組みを取っている。	マイチェンジに向け、スタッフ皆が努力している。
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	入居相談やご本人と面談する入居審査の場面において、ご本人やご家族の要望を伺うようにしている。ご本人の家族構成や職歴等の生活暦を伺うなかで、グループホームでの生活が始まった後から、ご本人がやりがいを感じる場面作りを検討している。	検討し、行動している。
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	事業所の見学は可能な限り2回以上実施して頂き、事業所の雰囲気を一層感じてもらえるようにするとともに、ご家族の話を伺う時間を多く設定している。事業所はご家族が叶えることができなかったことを実現する責任があるものと認識し、ご家族からの要望は可能な限り実現できるように努力している。	面会時なども不安や不満に思っている事などお聞きしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	グループホームへの入居に限った対応はせずに、在宅での生活が継続できないのかを検討しながら、他の社会資源を案内している。グループホームへの入居が必要となった時には、自事業所のみを見学とせずに、他法人のグループホームの空室状況を案内し、他グループホームを見学することで、ご本人に合ったグループホームを選択して頂けるように案内している。		その方がどこで生活するのが望ましいか一人ひとりきちんと考えて行きたい。
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	体験的な入居は実施していないが、ご家族立会いのもとであれば、日中帯での体験的な利用は可能としている。ご家族を含めて、ご入居者と共に食事を摂ることも可能としている。		今後そういう場面があった時は対応していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	共に笑ったり、その方の気持ちに寄り添いケアしている。		その方の思い、気持ちを大切にスタッフみんながそう思えるようになりたい。
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族もチームケアの一員と考えており、協力など得たり相談等している。		あまり積極的ではない家族へのアプローチ。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	自分達が入り込める範囲内では積極的に支援している。		プライベートの部分なので入り込めない部分も多いが、これからも諦めず良い方法をみんなで考えたい。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	会話の中で思い出せるよう話をしている。とても良い表情をされている。		可能な限り、行ける所は行けるように取り組んでみたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	9人全員を巻き込んで会話やレクリエーションなど出来るようにしている。		ふっとフロアを見た時に一人不安そうな利用者様がいる時があるのでそういう場面をなくしたい。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退居後、スタッフ同士の会話の中では「どうしているだろうか?」とは出てくるが、会いに行ったり家族との連絡は取っていない。		家族とは入居中の関わりで深さで退去した時も気軽に話をする事が出来ると思うので1日1日関わりを大切にしたい。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々利用者様の変化や思いを考え、話し合い把握できるようにしている。早目に変化に気付いている。		センター方式の活用に徹底。担当者だけでなくスタッフみんなが一人一人に深い関わりを持てるようにしたい。情報の共有。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族、本人から聞き取りをしている。センター方式も活用し、その方の生きていた道を大切にしている。		センター方式の活用。家族からもっと情報を頂けるようスタッフの意識を高くする。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	9人全員の生活をしっかり把握している。ケアについてはまだ統一されていない部分がある。		スタッフによっては落ち着いている日、そうでない日がある。統一したチームケアを確立したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ニーズは本人にあったニーズになるよう努めている。カンファの中に家族も入って話し合うのもっといいと思う。		ケアプランを見ただけでその方が分かるようなプラン作りをして行く。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	利用者様の变化に気づき、期間前であってもカンファを開き見直している。		一人一人に合ったその時その時できちんと向き合い、プラン作りをしたい。
38 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子、表情、言葉などを大切に記録している。		せっかく書いている様子もなかなか読むことをしてなく、みんながどうい言葉で声をかけてケアをしているのか把握していない。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	可能な限り支援している。		どんどん要望を言って頂けるようにしたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	多くの方々のご理解とご協力を得ることができ、様々な場面でボランティアの協力を得ることができている。		沢山の方々の支えがあり、支援できている。
41 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	地域のケアマネジャーや施設相談員と交流する機会を設け、社会資源の状況を都度把握し、必要に応じて利用を検討している。		必要に応じ検討している。もっといろんなケアマネジャー、や施設の方と顔馴染みになりたい。
42 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議を通して、地域包括支援センターから様々な助言を頂き、サービスの向上に努めている。		地域包括支援センターの方とも、もっと気軽にいろいろ相談できるようにしたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。	提携医療機関の主治医に固執することはなく、入居前の主治医を継続することも可能としている。事情によって入居をきっかけに主治医が変更される場合においても、紹介状等を介して過去の情報が共有されるように努めている。		医療はとても難しい判断になるので主治医とはいつも良い関係でいたい。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	提携医療機関の医師は在宅訪問診療に長年携わったベテラン医師であり、認知症の専門的な知識と見解を要している他、認知症高齢者の行動や精神状態にも深い理解を示しており、職員の相談に適宜応じてくれている。		主治医の変更により相談しやすくなった。わからない事や困っている事はホーム内判断でなく医師へ相談する。
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	提携医療機関の看護師はご入居者の健康管理に務める以外に、職員の相談に応じたり、助言を行うなどの支援を実施している。グループホーム運営への理解に長けており、事業所の雰囲気や職員の活動に対しても適宜適切な助言や指導を行っている。		訪問看護の看護師はいつも快く相談に乗って下さる。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	速やかに情報提供を実施することとしている。医療機関への入院期間が長期化し認知症が進行しないように、治療を終えたら早期に退院が可能となるように掛け合っている。医師の指導を受け、事業所内で職員が実施できるリハビリの指導を受けるなどの工夫を行っている。法人内に管理栄養士を配置し、個々の疾病に応じた献立が立てられるようにしている。		ホームで対応可能な限りは入院はなるべく避けたい。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	ご入居時に重度化した場合に関わる指針を説明しているが、多くのご家族にとって、先々のことが実感できないものであると考え、重度かもしくは終末期が考えられる可能性が生じた際に早期に相談する場面を設けている。		職員の知識や見解等の時期を考えながら終末期ケアに関しての専門的な研修会を設けたい
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	終末期に対応は個々の疾病や身体状況によって変わる他、ご家族の想いや協力度合いによって可能となることが変化すると考えている。できることの見極めよりもできないことを明確にしておくことを重視し検討している。		終末期については今後の課題である。今現在では終末期ケアは出来ないと。安心してケアが提供できるようにしたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>グループホームへの入居によって環境が全く変わってしまうことのないように、身の回りの家具は可能な限り長年使用しているものを持ち込んで頂く様に説明している。なじみの場所から離れることの無いように、好きな土地や思い出の場所を知っておくようにし、事業所内の行事事で訪れる機会を持つようになっている。</p>		<p>馴染みの物、顔、環境などは今後も大切にする。</p>
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>声掛けには十分気を使い声掛けしている。</p>		<p>できていない部分は今後も伝え続ける。</p>
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>説得ではなく納得していただいてから支援している。</p>		<p>ゆっくり納得できるように時間を共有していきたい。</p>
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>優先順位を考えようと会議の中で話している。結果、手を止めて関わる姿が増えてきた。</p>		<p>まだ業務優先、スタッフ都合の場面が見られる。今何をする事が大切なのかを考える。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>理美容はホームの提携の訪問理美容を頼んでいる。本人の望む店かは分からないが皆さん終わった後満足されている。</p>		<p>当たり前訪問理美容を頼んでいたが検討してみたい。</p>
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>調理、片付け、食事中と常に利用者様と一緒に楽しみながら支援している。</p>		<p>リビングも使い、みんなで調理できるようになるといい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	食べたいものなど聞いて、メニューに取り入れるようにしている。		現在はお酒、タバコなど吸う方はいらっしゃらないが、今後希望があれば対応したい。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	声掛けにも十分な注意をし支援している。なるべくおむつにならない様排泄パターンを知り支援している。		日中だけでも布パンツで全員が過ごせるようにしたい。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	曜日や時間帯は特に決めていない。ゆっくり入浴できるようにしている。		今後も継続したい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	休息の時間を作っている。夜も安心して眠ることができるように支援している。		今後も継続したい。スタッフによって荒れる夜がないようにしたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人ひとりのその時の気持ちに寄り添いながら声掛けし、気分転換のため散歩など行っている。		今後も一人一人に合わせた対応をする。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	直接本人へお金を使ってもらう事はしていないが、預っている旨をお話し、自由に使えるようにしている。		本人へお金を渡し、好きな物を買ってくるというレクリエーションを取り入れたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	いつでも自由に外へ出掛けられるように支援している。		今後も自由に外出できるよう継続したい。
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	レクリエーションの中でなかなか行けない場所に行って楽しんでいる。		ご家族様にも声を掛け、一緒に楽しめるようにしたい。
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望や訴えにより支援している。		気軽に訴えられるようにしたい。
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時には暖かく迎え入れ、お茶などお出ししてゆっくり過ごせるようにしている。		面会時用の小さなテーブル、椅子などあるとよりゆっくろく過ごせると思う。
(4) 安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束はしていない。スタッフも理解している。		研修を定期的にし、忘れないようにしたい。
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	取り組んでいる。スタッフにも周知している。		今後もその様な事をしないようにしたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	出来ている。少しの音や動きにも気を配り確認している。		音にもっと敏感になるようにしたい。居るだろうではなく、スタッフみんなが安全について意識が持てるようにしたい。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	している。大袈裟に成らないよう保管にも気を配っている。		今後も十分に気をつけていく。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故報告書・ヒヤリハット報告書を基に、事業所内で起きる、事故もしくは事故に結びつく可能性がある事柄を共有している。法人内においては全事業所の事故報告を集計し、全ての事業所で事故対策・予防を講じられるように指導している。		スタッフの判断で事故報告書、ヒヤリハットを書いていない時があるので真実はきちんと書くようにする。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	訓練への参加や機会の提供が少なく、積極的・定期的な取り組みが成されていない。職員個々の取り組みに任せきりになっている。		定期的な訓練が実施されるように努める
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	日中、夜間を想定した訓練を実施している。地域住民の協力を得ての訓練を実施した経験が無い。		地域住民の協力を得た訓練を実施する。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	入居時に起こりうる事故の説明を実施している他、事故対策や予防への努めも説明し、安心して事業所を利用できるようにしている。		ADLの低下に伴い危険性が増した時ご家族へ説明している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>努めている。早目に発見し、周知し対応している。</p>	<p>スタッフ全員が適切な対応をできるようにしたい。</p>
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>努めている。担当医とも相談しながら支援している。</p>	<p>副作用にまでは全スタッフ気がついていないとは思えないので周知する。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>取り組んでいる。水分量もチェックし、排便も確認している。</p>	<p>スタッフによってはまだ不十分であるため、伝えていく。</p>
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>毎食後、口腔ケアをしている。</p>	<p>一人一人にきちんと見守り、確認の徹底。</p>
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>している。食べれる量にあわせ盛り付けを行なっている。水分量の確保も出来ている。</p>	<p>今後もしっかり行っていく。</p>
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>法人内共通の予防・対応マニュアルが設置され、日頃から感染症対策が実施されている。</p>	<p>今後もしっかり実施していく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	法人内共通の予防・対応マニュアルが設置され、日頃から衛生管理が実施されている。		完璧ではないので完璧にしたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関前にはボードを設置し、近隣の住民が事業所内の取り組みがわかるように配慮している。		今後も行っていく。
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	工夫している。生活感や季節感は大切にしている。		継続していく。
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	している。一人になりたい時や気の合う同士が集まれるよう支援している。		居室をもっと活用する。
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	工夫している。入居時には馴染みの物を持って来て頂くようにしている。		今後も行っていく。
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	行なっている。不快な思いにならない様気を配っている。		今後も十分は配慮をして行く。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	工夫している。ぶつかるといふような物はしまい、常に自由に動けるよう心がけている。	整理整頓の徹底。
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	一人ひとりの思いに寄り添いケアをしている。混乱しないような声掛けの徹底を行っている。	今後も十分に理解し、行っていく。
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	シーズンによって事業所前の駐車スペースでバーベキューや日光浴を楽しんだり、事業所裏の畑で季節の実りを感じ、活動の場を設けている。	今後も沢山の活動をしたい。

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

- ・入居者と職員のコミュニケーションを大事にしています。
- ・自分達の大先輩の利用者様に支援しているのではなく、家族として向き合う事を大事にしています。
- ・笑顔で過ごして頂ける様に、少しでも利用者の悲しみ、悩みに近づく様に努めたいです。